

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	田中 満由美	職名	教授	学位	修士 (経済学)(山口大学 1999 年)
----	--------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
助産学	就労女性の仕事と子育ての両立、ペリネイタル・ロス、不妊症患者に関する看護、父性の研究、女性の尿失禁、性教育

研究課題
<p>「就労女性の仕事と子育ての両立」を主軸に、「不妊症患者に関する看護」「ペリネイタル・ロスを経験した母親や父親についての援助方法」「妊娠・分娩・子育て期の看護」「性教育」「父性の研究」「女性の尿失禁」をテーマに研究をしている。学会発表においては、第 41 回日本母性衛生学会会長賞を受賞し、山口県母性衛生学会奨励賞は 5 回受賞している。特に助産学の研究に力を入れ、助産学の質向上に努めている。「就労女性の仕事と子育ての両立」については、就労女性の疲労度を軽減するにはどのような援助が必要かを明らかにし 援助方法を提示している。「仕事と不妊治療の両立に必要な援助方法に関する研究」では就労女性の不妊治療における困難やストレスの内容、就労と治療の調整を困難にしている要因を明らかにし、看護援助や治療環境のあり方を提示している。「助産師がペリネイタル・ロスのケア体験に適応していくプロセス」の研究では助産師がペリネイタル・ロスのケア体験に適応していくプロセスを明らかにし、ペリネイタル・ロスのケアに対する助産師教育の方向性を提示している。</p>

担当授業科目	
基礎助産学 I (前期)(助産別科)	助産学基礎実習 (前期)(助産別科)
助産管理学 (前期・後期)(助産別科)	助産学実習 I (正常) (前期)(助産別科)
助産診断・ケア学 7 (前期・後期)(助産別科)	助産管理実習 (後期)(助産別科)
助産学研究演習 (前期・後期)(助産別科)	母性看護学概論 (前期)(看護学科)
キリスト教と生命倫理 (後期)(助産別科)	ウィメンズヘルス看護論 (前期)(看護学科)
子育て支援論 (前期)(助産別科)	
キャリア開発 (後期)(看護学科・人文学部・福祉学科・栄養学科)	
総合看護学 (前期)(助産別科)	

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 基礎助産学 I 】 範囲が広いので、授業にはパワーポイントで展開し、国家試験出題基準も意識し、資料はカラーの使用で覚えるところの強調等をして作成した。限られた時間ではあるが、学生に討議するなどの時間もつかった。</p>
<p>授業科目名【 助産管理学 】 病院・助産所における助産管理に必要な基本的知識を身に着けるため、助産管理の基本的概念と管理のプロセス、業務管理、助産業務に関連する概念や関連法規、周産期管理システム、周産期におけるリスクマネジメント、災害時の看護ケアなどについて臨床経験を活かし、事例を示しながら、国家試験も念頭に授業を展開した。資料は特に覚えなければならないことはカラーを使用するなどの工夫をして作成した。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学 7 】 助産診断過程についての講義は田中が担当し、事例を通して各期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)は学生各人に対して教員の担当を決め、マンツーマンで助産過程の指導を実施し、各期毎に学生の代表者に発表させ、共通認識しながら演習を進めて行った。学生はマンツーマンの指導や他人の発表を聞くことで助産過程をより理解することができた。実習で助産過程を展開する際、この科目での習得した技術により、助産診断・助産過程が全員出来ていた。効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。</p>

<p>授業科目名【 助産学研究演習 】</p> <p>前半は研究の講義を実施し、後半はグループ担当教員を決め、担当教員の元、グループでテーマを決めて研究計画書の作成を行い、構想発表会を実施した。構想発表会では学生は自分たちで研究計画書作成のプロセスでの教員とのやり取りの中での学びをもとに活発な質疑応答を実施することができた。効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。</p>
<p>授業科目名【 キリスト教と生命倫理 】</p> <p>8 コマ中、4 コマ担当している。担当部分に関しては、倫理と助産業務、生命倫理(生殖補助医療、代理出産、人工妊娠中絶、出生診断)などについて講義をするとともに討論した。本科目のコマは受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、そのことを念頭に入れて申請書に沿った 授業を展開した。次年度も受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、この形式で実施する予定である。</p>
<p>授業科目名【 子育て支援論 】</p> <p>担当分 4 コマについては講義は子育て支援全般(子育て支援とは・目的・支援施策の歴史・諸問題と理論・現状・関連3法その他の法律)について概説した。一方的に講義するのではなく、積極的に学習できるように母子保健施策として実施されている様々な子育て支援を日本を数ブロックに分け、担当ブロックを調査し、担当ブロックについて発表しデータを共有するとともにそれぞれの自治体の背景にあった子育て支援がなされている特徴を学生が、発見することができた。自分たちの担当県との違いなどについて討論することができた。効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。</p>
<p>授業科目名【 総合護学 】</p> <p>担当部分は看護理論であるが、助産別科学生は大学卒、看護学校卒、専攻科卒、5年一貫卒と基礎教育がばらばらであり、それぞれの学校で看護過程を展開する基盤となる主に使用する理論も違っているため、そこを意識し、主たる看護理論を概説した。</p>
<p>授業科目名【 助産学基礎実習 】</p> <p>担当が名古屋市梅坪のクリニックであるため、教員はずっと毎日顔を合わせて指導はできないので、いない間は毎日学生にメールで記録物を送ってもらい、記録物をメールで添削、コメント、指導するようにした。効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。</p>
<p>授業科目名【 助産学実習Ⅰ(正常) 】</p> <p>担当が名古屋市梅坪のクリニックであるため、教員はずっと毎日顔を合わせて指導はできないので、いない間は毎日学生にメールで記録物を送ってもらい、記録物をメールで添削、コメント、指導するようにした。効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。</p>
<p>授業科目名【 助産管理実習 】</p> <p>担当は福岡県北九州市の四つ葉助産院と子育てプラザであった。両施設とも学生は自立して積極的に実習できた。効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学概論 】</p> <p>8 コマで教科書1冊を教授するという制約の中で、国家試験の意識しながら、ギューギューに内容を詰め込んでいるが、学習の理解を助けるため、授業始めに前回のポイントを5分程度使用して復習している。時間内に質問は実施しているが、もっとゆっくり考える時間をとりたい。授業初めに前回のポイントを5分程度使用して復習については効果があるので、次年度も継続するが、優先度の低いところを削るという作業を少し実施し、時間的余裕をもって講義を展開したい。</p>
<p>授業科目名【 ウィメンズヘルス看護論 】</p> <p>学生の興味のあるテーマで助産別科担当教員が各人に対してマンツーマンで指導している。担当教員は時間内にすべて指導できるわけではないので、大変ではあるが、学生は指導の中で、研究の基礎となる「調べること」「書く」「まとめる」などの基礎をプロセスとして学習し、学生の満足度は高かった。学生は自分の 興味あることを積極的に図書館の利用、医中誌などの利用などを通して調べる、まとめることの面白さが分かったようである。</p>

授業科目名【 キャリア開発 】

キャリアを考える場合、大学生生活は性についてしっかり考えたうえで、行動することが大事であることから、1 コマを担当させていただいている。授業後のアンケートから性感染症について理解していない学生や妊娠について理解できていない学生も中にはいることが明らかになった。アンケートで質問や相談、誤った認識に対しては手紙で返答した。次年度も基本的なことからより丁寧に説明したい。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本母性衛生学会	2009.4～2016.3 評議員、論文査読委員	1974.4～現在に至る
日本看護学会		1975.6～現在に至る
日本助産学会	学術学会査読委員	1995.5～現在に至る
STTI	2012.7～2014.6 役員	2004.4 現在に至る
NHS		2002.9～現在に至る
山口医学	2003.4～評議員(現在に至る)(2003～2年幹事)	1999.4～現在に至る
山口県母性衛生学会	2003.7～2018.6 理事、2003.7～査読委員(現在に至る)	1984.7～現在に至る
日本母性看護学会	2019年3月～2019年4月学術学会査読委員	2015.10～現在に至る
日本看護診断学会		1995.4～2003.3
日本看護研究学会		1997.4～2003.3
日本解剖学会		1999.9～2018.3
日本神経科学学会		2000.5～2018.3
日本神経内分泌学会		2000.10～2018.3

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) 1 大学生のコンドームに関する知識習得状況およびコンドーム使用に関する自己効力感の実態	共著	2020年7月	母性衛生 Vol.60 (2)	①大学生のコンドームに関する知識習得状況およびコンドーム使用に関する自己効力感の実態を明らかにすることを目的に無記名自記式質問紙法でアンケート調査をした。分析対象は439名である。性交経験あり群は約34%であった。避妊法はコンドームが最も多かったが、コンドームについて学校で習ったものは約半数であった。コンドームに関する20項目について過半数が知らないと回答した項目は性交経験あり群は4項目、なし群は14項目であった。性交経験あり群を

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2 死産ならびに新生児死亡を経験した母親の乳汁分泌および乳汁分泌抑制に対する思い	共著	2020年3月	山口県母性衛生学会誌 Vol.36	<p>「大学生用日本語版コンドーム使用自己効力感尺度」得点を分析した結果、「使用スキル」「コントロール」「用意行動」で女性の得点が低かった。</p> <p>共著者名 亀崎明子、金梨華、河本恵理、田中満由美</p> <p>③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能</p> <p>①死産ならびに新生児死亡を経験した母親の乳汁分泌および乳汁分泌抑制に対する思いを明らかにすることを目的とした。妊娠27週以降の死産から経過が18か月未満または新生児死亡からの経過が18か月未満の母親で、乳汁分泌が停止している者を対象者とした。6名を対象に半構成面接を実施した。その結果、乳汁分泌に対する思いとして【子どもに直接授乳したい】【子どもに母乳を与えたい】【子どもが存在した証】【搾乳で供養したい】【乳汁分泌停止によって実感する喪失感】【母乳を与える子どもがいない喪失感】の6カテゴリーが抽出された。乳汁分泌抑制に対する思いは一人一人異なっていた。医療者は児の誕生とともに死を受け入れなければならない母親の思いに寄り添いながら、思い込みや慣例にとらわれず、授乳や乳房ケアを行う必要がある。また、母親自身が乳汁分泌を抑制するか否か意思決定できるよう医療者が支援する必要性が示唆された。</p> <p>②共著者名 武原夕子、田中満由美、亀崎明子</p> <p>③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能</p>
(翻訳) なし				

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1 妊婦の口腔ケアに関する知識ならびに口腔ケアの実態調査	共著	2019年6月	山口県母性衛生学会	①妊婦の口腔ケアに関する知識習得状況や口腔ケアの実態、歯周病セルフチェック票の得点を明らかにすることを目的に妊娠23～25週の妊婦41名を対象に質問紙調査を実施した。分析対象は38名であった。結果から知識が十分でないことが明らかになった。また、歯周病セルフチェックにおいても「健全」は10.5%、「中等度」39.5%、「重度」「軽度」はそれぞれ23.7%であった。専門職は、妊婦に口腔ケアの重要性について指導する必要があることが明らかになった。また、妊婦が歯周病予防のためのセルフケアを実施できるように支援する必要性が示唆された。小林美緒、坪井陽子、松生晴美、坂口真梨、中川真緒、松永一枝、工谷亜希子、塩道敦子、大田まゆみ、亀崎明子、田中満由美 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
山口県実習指導者講習会 (実習指導者対象「実習評価」講義)	講習会講師	2019.10.23～10.28
山口県看護協会 (助産師職能対象「臨床推論」講演)	講演講師	2020.1.18
シニアカレッジ (高齢者対象「脳の性差」講義)	講師	2019.8.30

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

助産別科長、入試委員会委員、学生支援委員会委員、